

## 社会政策研究センター

The Social Policy Research Centre (SPRC)

勝 又 幸 子

### 1. 背 景

社会政策研究センター (The Social Policy Research Centre: 以下 SPRC) はオーストラリアのシドニーに設立された研究機関である。SPRCは1980年1月に活動を開始したが、当初ニューサウスウェールズ大学の独立した機関として英連邦政府と大学との5年間契約のもと創設された。最初の契約は一部修正されて、さらに2期(5年契約の2回更新)延長された。現在3回目の契約が更新され、今年より1999年末までの新5カ年計画が始まっている。

年報に掲載された1994年の財源構造から判断して、SPRCは日本における特殊法人に近い位

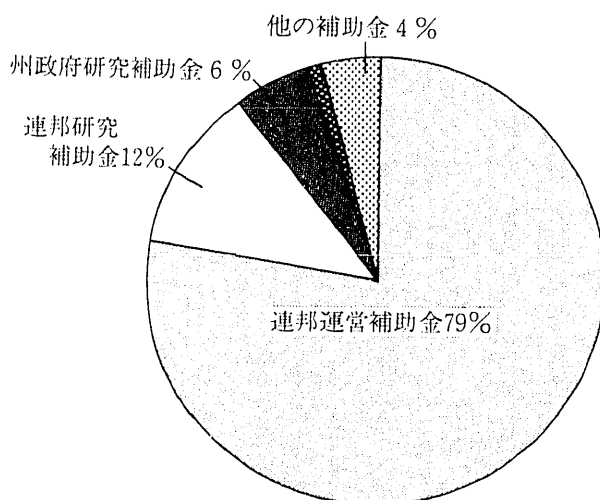


図1 SPRCの1994年歳入内訳

置づけになるとおもわれる。SPRCは基金の運用収入ではなくさまざまな政府レベルの補助金で運営されている。基本的には運営費が連邦政府で、研究費は連邦政府と州政府の両方の補助金で賄われている。連邦政府研究補助金はDSS (Department of Social Security)とDHS (Department of Human Services and Health)からSPRCへの外部委託研究費として支出されている。その他の委託研究でもシドニー市や労働組合・州の福祉局等、公的機関の委託がほとんどである。委託研究課題については「2. 活動」で詳しく紹介する(図1参照)。

### 2. 活 動

SPRCは大学の独立の機関として広範な社会政策研究を行っている。研究成果は刊行物およびSPRCの会議を通じて専門家や一般に公表されている。SPRCは他の機関のセミナーや会議の開催に協賛し、社会政策調査・研究の普及を援助し、優秀な研究者および学者の育成にも研究所内外の研修制度および博士課程のプログラムを通じて援助している。1994年末現在で28名の研究員およびスタッフがいる。この数には博士課程在学中の者が含まれており、そのうち常勤の研究員は9名である。

## 研究活動の実際

### セミナー・会議等

終日ワークショップの開催：1994年9月23日「ライフコースと社会政策における『依存』の問題」(DEPENDENCY, THE LIFE COURSE AND SOCIAL POLICY)

研究所内の会議室で行われる公開講座（定員50名程度）で、講師は研究所の研究者と外部の大学教授・行政官等であり、それぞれの視点で『依存』を分析した。視点は広範であり、哲学的なものから老人介護の実際までオーストラリアの社会保障政策・制度における『依存』の扱いについて議論した。この場で報告された内容は、SPRC Reports and Proceedingsとして刊行される。

National Social Policy Conferenceの開催：SPRCが主催して2年に1回開催する研究会議である。最近では、1995年の7月5～7日「社会政策と社会変動への挑戦」(Social Policy and the Challenges of Social Change)というテーマで行われた。今回は現代オーストラリアの複雑な社会変動に焦点をあて、社会・経済的不平等（加齢・性別役割・障害・言語・少数民族等が要因）と関係する社会政策を議論した。

所内研究会の開催：年間27回（1994年実績）所内外の研究者による研究報告を行っている。報告講師は27回中5回が所内研究者、17回が国内の研究者、7回が外国の研究者となっている。

他所外における、SPRC研究者の研究発表や講演を奨励し、その業績については研究所年報に掲載し、Reprintsとしても刊行している。

### 外部委託研究

連邦政府研究補助金の1994年委託研究は、

DSS と DSHS の委託研究で、「社会経済的不平等の研究」「所得分布と健康水準の不平等」「個人需要分析プロジェクト評価研究」「引退・仕事と健康」等が行われた。また、州政府補助金の1994年委託研究はニューサウスウェールズ州政府コミュニティサービス課の委託で、「定年制廃止の影響について」「地域介護サービス施策の評価」「高齢勤労者の労働市場状況」「保護施設退所後のケアに関する時系列的研究」が行われた。その他の委託研究では、「西暦2000年オリンピック開催の社会的影響力の研究」などの長期的研究も含まれている。

### 教 育

SPRC Postgraduate Scholarship: SPRCは博士課程に在籍中で学位論文執筆中の者1～2名に対して奨学金を出している。SPRCの奨学金はオーストラリア大学院研究奨学金に期間・条件で準ずるものである。ニューサウスウェールズ大学の博士課程在学中の学生に対してもSPRCはアドバイスを与えている。博士課程の学生に対するアドバイス提供機関としての期待を外部からますます集めている。1994年には年間5名の博士課程在学生在がSPRC奨学金を、また1名がオーストラリア大学院研究奨学金を得た。SPRCはこれらの奨学生に机を与えて、奨学生からはセンターの行事や研究活動への協力も得ている。

また、SPRCは研究員がニューサウスウェールズ大学をはじめとして、教育機関で講師として教えることを奨励している。

### 出版活動

Reports and Proceedings, Discussion Papers, Reserach Resource Series, Newsletter, Reprints, *The Diary of Social Legisla-*

tion and Policy, SSEI Monographs の 7 種類  
の刊行物を発行している。このうち、News-  
letter と Discussion Papers は無料で配布し、  
残りの刊行物は廉価（豪州ドル10ドル以下）で  
販売している。過去の刊行物の内容を知りたい  
場合はリストが無料で入手できる。社会保障研  
究所の図書室には図書交換でリストをはじめ全  
部ではないが、Reports and Proceedings, Dis-  
cussion Papers, Newsletter と Annual Report  
がある。

1994年 SPRC が新たに出した刊行物は19, 他  
の機関との共同で出したものが5, 年2回発行  
された Newsletter は国内外の2,400カ所に配  
布されている。刊行物の販売収入は1994年実績  
で9,600豪州ドルで歳入の0.8%にも満たない。  
出版活動は研究成果の普及を第1義的に行われ、  
基本的には補助金による出版事業になっている。

### 対外協力と国際交流

SPRC は他の機関からの研究者の受け入れ  
を行っている。そのうち「客員研究員 (Visiting  
Fellows)」制度とは年間1名の研究者に SPRC  
が費用の一部を支出して受け入れるものであ  
る。研究所滞在期間中は研究プロジェクトに参  
加し報告することが義務づけられている。また  
「客員学者 (Visiting Scholars)」制度とは、自  
らの研究課題のために研究所に滞在する人を受  
け入れるものである。客員学者には SPRC は資  
金的援助は行わない。受け入れ期間は半年・1  
学期間から数日まで、個人の都合でさまざま  
である。

研究員は外部の団体や国際会議の委員として  
も活躍し、研究成果を広く普及させている。

## 3. 設 備

### 図書資料室

図書資料室は比較的小規模で、蔵書は雑誌を  
含めて240種類、ほとんどが英語の文献である。  
センターが大学構内にあり、ニューサウスウェ  
ールズ大学の中央図書館とのアクセスが確保さ  
れているため、図書は本よりも専門雑誌を中心  
に収集されている。センターと大学図書館がコ  
ンピューターネットワークで結ばれているた  
め、大学図書館の蔵書検索が各研究員のデスク  
トップ端末でできる。専門司書1人が週に4日  
勤務しており、図書の管理を行っている。また、  
司書はセンター図書室独自のデータベースも作  
成している。そのデータベースは、センター独  
自の研究に関連する文献収集を助けている。そ  
して各研究員はデスクトップの端末で希望テー  
マのデータベースにアクセスできる。また、司  
書は年に1冊特定のテーマで「注釈付き文献目  
録 (An Annotated Bibliography)」を作成し、  
SPRC Research Resource Series<sup>2)</sup>として刊行  
し社会政策研究の文献整備に貢献している。図  
書費は歳出の2%を占め、1994年で2万7千豪  
州ドル (1A\$ = ¥85 として約230万円) である。

大学構内という SPRC の立地条件もあり、図  
書室はニューサウスウェールズ大学の教授陣や  
大学生にも開放されているが、図書の貸し出し  
は行わず閲覧と実費を徴収した複写サービス  
(セルフサービス) のみを行っている。オースト  
ラリアでは中学生の社会科の授業から社会保障  
や福祉のテーマを自主研究として採用する先生  
が多く、地元の中高校生からの直接の問い合わ  
せが集中することがあると聞いた。あくまでも  
研究所の専門図書室としての役割が優先される

が、「自分のできる範囲で彼等の要求にも応えている」と司書は話していた。地域社会にも開かれた公的研究所の役割認識が徹底されている。

#### 4. SPRC 将来の課題

1995年初より新しい研究5カ年計画が始まったばかりである。委託研究では社会保険省からの調査研究が全体の財源の2割を占めるようになった。研究所としては所得再分配・社会保障・労働市場・地域援助等のテーマについて、とくに研究活動を拡大充実してゆくことになっている。

#### 5. 社会保障研究所との比較

冒頭に紹介したように、財源の面から見てSPRCは現在の社会保障研究所とよく似ている。支出構造から見ても共通する点があると思われる(図2参照)。しかし、社会保障研究所の場合、比較資料が公開されていないので事実はわからない。

SPRCは大学との関係をより強くもっている点で社会保障研究所とは異なっている。独自の大学院奨学金があることからわかるように、研究機関としてのみならず、教育機関としてもその役割を担っている。最近日本でも社会科学系の大学院進学率が上がってきている。博士号の取得への道も以前よりは閉鎖的ではなくなりつつある。大学と公的研究機関との協力関係をより積極的に考える必要が出てきていると思う。国際的な研究ネットワークを構築してゆ

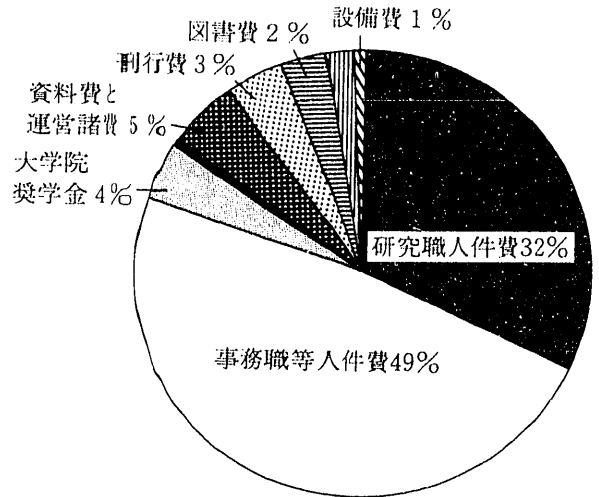


図2 SPRCの1994年歳出内訳

くためにも、公的研究機関同士の交流のみならず大学等の教育機関との交流も有効である。SPRCはさまざまな面で我々にとって参考になる研究所である。

#### 注

- 1) 創立当初の名前は社会福祉研究センターと呼ばれていたが、1990年より今の名称となった。
- 2) 例：SPRC Reserch Resource Series, P11 No.11 Lynn Sitsky, 'Caregivers of the Elderly and Younger Adults with Disabilites: An annotated Bibliography', September 1994, 336pp.

SPRC (社会政策研究センター) 連絡先  
住 所：Social Policy Research Centre  
University of New South Wales  
Sydney, NSW, 2052  
Australia

電 話 : +61 (2) 385 3833

ファックス : +61 (2) 385 1049

Electronic Mail : sprc@unsw.edu.a

(かつまた・ゆきこ 社会保障研究所研究員)